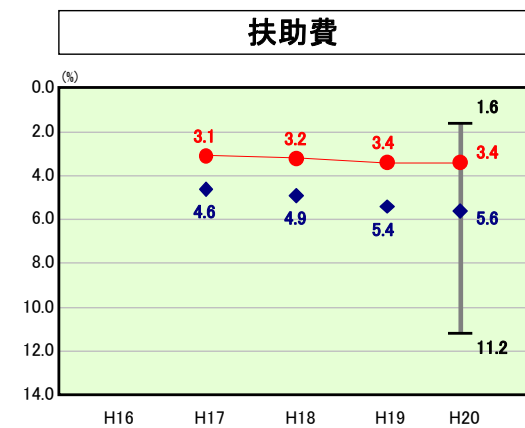
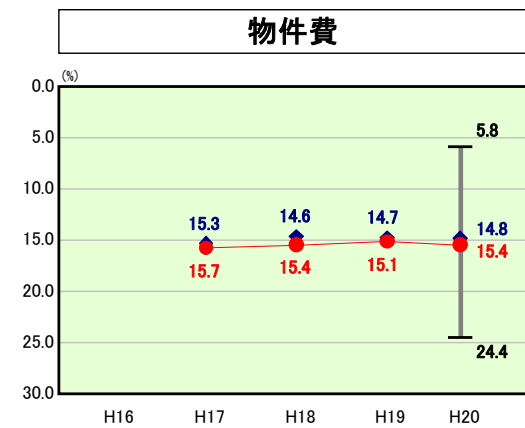
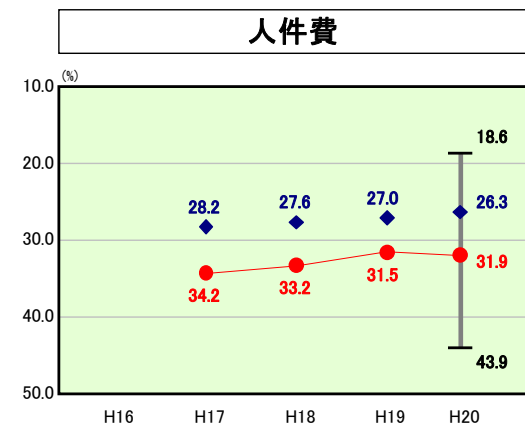
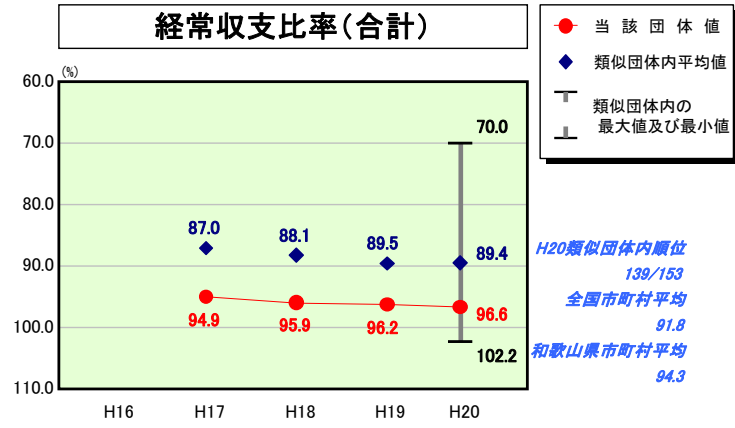
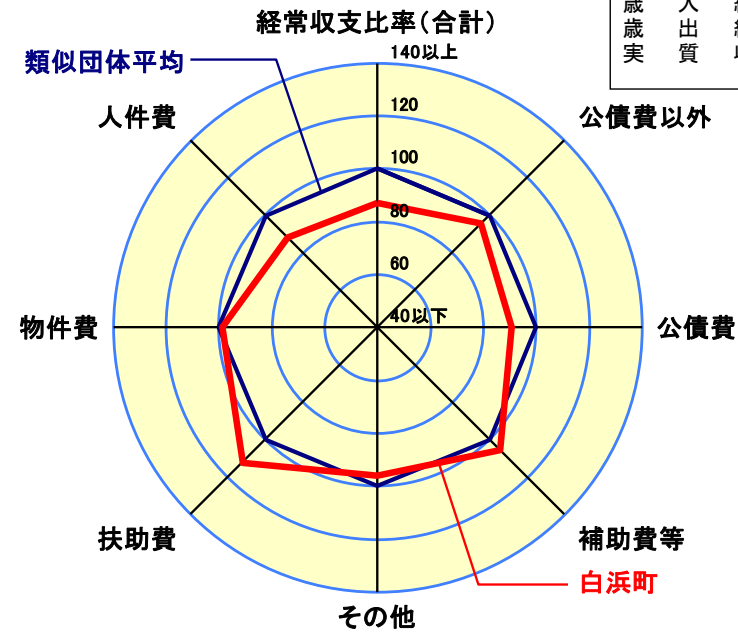


歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

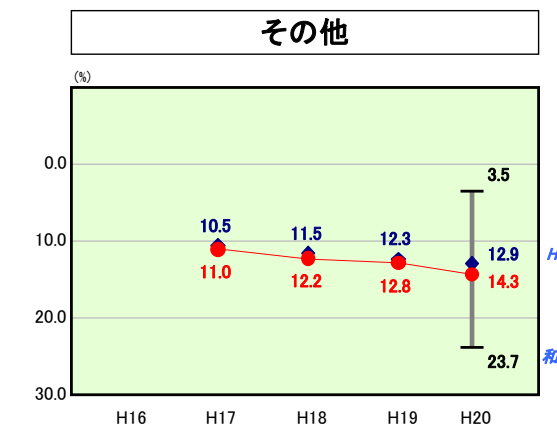
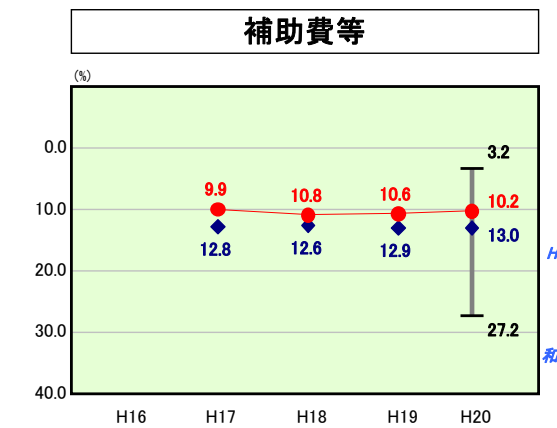
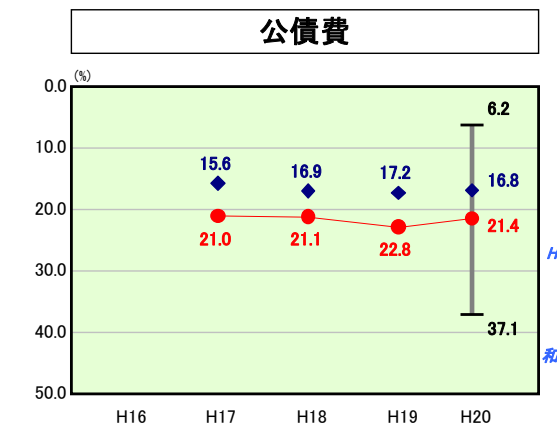
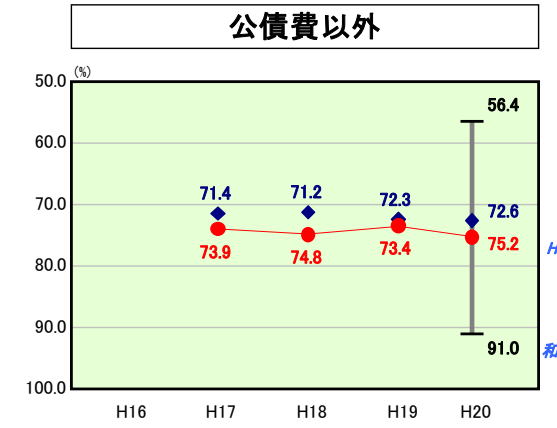
経常収支比率の分析



人口	23,760人(H21.3.31現在)
面積	201.04 km ²
標準財政規模	6,672,141千円
歳入総額	10,514,334千円
歳出総額	10,145,414千円
実質収支	130,701千円



- ※1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- ※2 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- ※3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。



分析欄

【経常収支比率】

96.6%と類似団体と比較して高い数値となっているのは、本町は、清掃業務や消防業務などを単独で行っており、これらの人件費、物件費、維持管理費が類似団体に比較して多額となっていることが大きい。またここ数年比率が悪化している要因の一つに、下水道や簡易水道特別会計への赤字補填分の繰入金増加があげられる。今後、町税収など自主財源の大幅な増加は見込まれない中、人件費をはじめとする経常経費のさらなる削減を行うことで、比率の抑制を図っていく。

【人件費及び人件費に準ずる費用の分析】

類似団体を上回る費用がかかっているが、これは当町が関西有数の観光地であり多くの観光客が訪れる町であるため、公衆浴場など施設が多いなど、人口規模以上に様々な行政需要に対応するために職員や臨時職員が多くなっているためである。またごみ処理業務や消防業務も単独で行っており、消防はすさみ町の消防業務も受託しており職員数に影響している。今後は白浜町職員適正化計画に基づき、事務事業の見直しや町内組織の再編成、民間委託の推進等を進め、適正な定員管理に努める。

【公債費及び公債費に準ずる費用の分析】

人口1人当たりの決算額が類似団体平均20,246円に対し、31,971円と上まわっている。これは空港建設に伴う清掃センター、斎場、最終処分場建設の起債や道路橋梁整備事業、また、健康交流拠点施設の償還額が大きいことが要因となっている。また紀南病院の移転建築に伴う公債費負担金や富田川衛生施設組合の公債費負担金なども多くなっている。

【普通建設事業費】

19年度決算額より大きく減少したが、これは西富田小学校建設事業やブロードバンド基盤整備事業等の大型建設事業が完了したためである。今後小中学校の耐震化事業やその他の合併特例事業等様々な事業は計画されているが、事業実施にあたっては、事業の緊急性、費用対効果などを十分に考慮し、また可能な限り事業費の縮小を図りながら第1次白浜町長期総合計画にそった町づくりを進めていく。